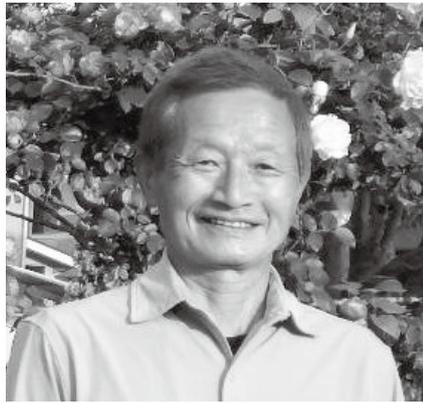


# キラリ★ 話題の「ひと」



ふさひら  
小早川 房平さん  
(米山南町)

## ○プロフィール

米山南町会長。  
ピエロマジックボランティア。

### 地域で花のおもてなし

#### 約

70種100株のバラをはじめ、季節ごとに見事に花が咲きそろう米山公園は、地域の人の憩いの場となっています。

小早川さんが町会長になった13年前は、町内の中央に位置する同公園は、草ぼうぼうでした。子どもたちの声が響き、みんなが集う町内のシンボルゾーンにしたいと考えた小早川さんは、県の緑化ボランティアリーダー養成講座を受講し、花壇の作り方を学びました。町会の皆さんがとても協力的で、公園に咲いた花を使い子ども花教室を開催したり、花に囲まれてグラウンドゴルフ大会を開催したりもしています。

同町会は、2020年「緑の環境プラン大賞」を受賞され、賞金の活動助成金100万円でバラのアーチやガーデンテールも設置しました。また、パンジーやナデシコなど花種も充実させました。今後について、小早川さんは「得意なことを持っている町内の人を発掘して町会を盛り上げて欲しい。

い。花で始まり、仲間をどんどん広げてもらいたい。親が住んでいながらではない、この場所に住みたいと選んでくれる人たちが増えてきて嬉しい限りです」と話されました。

また、小早川さんは、ボランティアで保育園や介護施設を訪問するピエロマジックの活動もされています。ピエロマジックもガーデン作りも『みんなの笑顔が見たい』という小早川さんの生きざまが形になっていくようです。

散歩をする人から「ここに来れば花が笑って出迎えてくれるのがうれしくて」との言葉に後押しされ、ますます花いっぱい公園を目指していくとのこと。米山ガーデンは進化中です。

(市民記者 永倉文子)



▲ピエロマジックの様子

## 市長からの メッセージ

就任から100日が過ぎましたが、慌ただしく業務をこなしています。6月までは「ぶらっとミーティング」として市役所庁舎内の職員の皆さんとコミュニケーションを図ってきましたが、7月に入り出先機関（63カ所）の職場を巡回し、現状の把握に努めています。各職場で市民サービス向上のために努力されている職員には頼もしさも感じます。特に日々子どもと接している保育園の先生方の明るさは、こちらも元気をもらいます。

さて、本市のワクチン接種ですが、65歳以上の接種につきましては順調に進んでおり、接種予約率では約8割の方々が予約を済ませています。また、16歳以上64歳以下の方にはワクチン接種券を7月7日から発送しました。予約受付については、基礎疾患のある方は7月26日から、高齢者施設等従事者と60歳から64歳までの方は8月2日から予約受付を開始し、今後59歳以下の方にも年齢別に予約を始めていきます。順次これからの接種状況をふまえお知らせしていきますので、広報さのと同時にお配りするチラシや市ホームページをご覧ください。

今月も雷雨や豪雨で集中的に雨量が増加したり、突風や竜巻も発生しやすい気象状況が予想されます。ご自身やご家族の身の安全確保には十分注意されますようお願いいたします。

(7月9日記)

金子 裕



## 新体制の部活動始動!

**6**月から田沼東中学校で月に2回程度、民間委託による休日の部活動指導が始まりました。文部科学省による部活動改革の一環として始まった取り組みのモデル校として、矢板中学校と共に選ばれた同校。先生方の指導における負担が軽減されるとともに、生徒が専門性の高い指導を受けられるなどの利点が考えられる取り組みに、先生や生徒そして保護者からの注目も高まっているようです。

中学・大学時代に短距離選手として全国大会出場経験があり、個人的にも地域の子どもたちに教えているという陸上部担当の柳沢さんは「良い成績を残すための部活動指導だけでなく、さまざまなコミュニケーションを通して、人の心というものも伝えていきたいですね」と話してくださいました。  
(市民記者 小林春美)



▲部活動指導の様子

## 田之入橋が開通しました

**令**和元年東日本台風（台風第19号）において被災した、田之入橋の復旧工事が終了し、7月6日（火）から開通しました。同橋は秋山川に架かる橋で、田之入町と栃本町を結んでいます。復旧工事は、令和2年9月から令和3年6月まで行われました。

同橋は、本市管轄で被災した橋の中では、最初に復旧した橋となります。お近くをご通行の際には、ぜひご利用ください。



▲被災直後の様子



▲復旧完了後の様子

### 方言助詞

方言助詞のはたらき — その2 —  
ものをたずねるときにいう疑問の「か」は、方言で「エ」という

「よ」とか「ね」に当たる方言に「ガネ」があります。「さつき言つたばかりだガネ」とか「間に合つてよかつたガネ」という「ガネ」です。これらの「ガネ」は、念を押したり、詠嘆の意を表したりする助詞です。これと同じ意味の方言に「ガナ」があります。「ガナ」は「ガネ」に比べてぞんざいであることから、自分より年上の人や目上の人を使うことはできません。

「デ」という方言の助詞もあります。今でも多くの方が使っています。「聞いたことと、じつさいに見たこととは、形も大きさもまるつきり違つてるデ」と

「デ」は、親しい人などに軽く念を押しているときに使います。ていねいな意があり、年上の人にも使います。「デ」は「行くよ」の「よ」とほぼ同じ意味です。

「エ」という疑問の助詞があります。これにはていねいな意があつて、年配者や見知らぬ人などにあることを尋ねるときに使います。

明治・大正生まれの人は、場所などを尋ねるとき「どこへイグエ?」のように、よく「エ」を用いました。「エ」は不定称（いつ・どこ・なに・だれ）と呼応関係にあります。

「ド」は、かつてはおとも子どもも使っていました。多くは男性でした。「この靴はオメガン（君の物）だド」。「今、イグ（行く）ド」などの「ド」は、共通語の「ぞ」が変化したもので、意味を強めるはたらきをします。

(市民記者 森下喜一)

